

地域支援だより

平成24年10月26日

第27号

秋田県立秋田きらり支援学校
地域支援部

きらりNet

おいしく 楽しく 食べる



秋田きらり支援学校の自宅通学生は、学校給食を「ランチルーム」で食べています。食形態は大まかに「普通食」「中・後期食」「初期食」に分けていますが、「普通食」でもフライなどは一口大に切ってあればフォークで食べることができるとか、「中・後期食」でも半分の長さの麺ならば箸やフォークで食べることができるなど、個人の給食指導の目標にも応えています。

学校栄養士に調理の際の留意点を尋ねたところ、

「中・後期食」(カッター食、きざみ食等)では、

- ・ミキサーにかけたときに断面が鋭くなる物(豆)を避ける
- ・水分の出る、野菜の和えものなどは、十分水分をきってから味を付けている

「初期食」(ブレンダーなど)では、

- ・ブレンダーにすると焼き魚・煮魚は生臭みが強くなるので、魚のフライを揚げた後に煮た物に替えブレンダーにしている
- ・ハンバーグやしゅうまいなどひき肉の粒(スジ)が残る物は、裏ごししてからブレンダーにしている

とのことでした。

また、教師が児童生徒の保護者から家庭ではどのような食形態で食べているのか尋ねたり、関わる教師同士で話し合ったりして食形態を変更することもあります。最近、保護者が家庭で行っている方法でパンのときの「初期食」をミキサーにかけて細かくしたところ、牛乳やスープ等に混ぜやすく、スムーズに児童生徒が食べるようになり好評です。

今後も、児童生徒が学校給食をおいしく楽しく食べられるように、保護者・教師・栄養士・調理員が情報交換をして調理の工夫を積極的にしていきたいと考えています。



ブレンダーのパン



ミキサーにかけたパン

【ハンバーグの場合】



<普通食>



<一口大>



<中・後期食>
1cmカット



<中・後期食>
さらになめらかに



<初期食>
ブレンダー

秋田きらり支援学校は肢体不自由者・病弱者である児童生徒に対する教育を主として行う特別支援学校です。

連載 本校の授業の様子から ～高等部 作業学習の紹介～

本校高等部では、週4時間作業学習を行っています。生徒一人一人の障害の状態や興味に合わせて選べるように「農耕」「リサイクル」「軽作業」の3つの作業内容があり、1つを選んで作業に取り組んでいます。今号ではリサイクル班と軽作業班について作業に取り組む際の配慮事項等を紹介します。

リサイクル班 空き缶のリサイクルを行います。「缶置き場から作業室まで運ぶ」→「缶を洗う」→「フルタブを取る」→「缶をつぶす」の工程を友達同士で声を掛け合いながら取り組んでいます。



- 作業しやすい机の高さになるようにします。
- 缶つぶし器の下に滑り止めを敷きます。
- 利き手で作業がしやすいように、利き手側につぶす前の缶が入ったかご、机の下にはつぶした缶を入れるかごを置きます。



- 実態に合わせて缶つぶし器を選択できるように3種類準備しています。

軽作業班

牛乳パックをベースにカラフルな折り紙や和紙などをボンドで貼り付けてペン立てを製作しています。8月までに完成したものは「かがやきの丘まつり」で1個百円で販売しました。時には先輩から後輩に「ボンドは多めに付けるといいよ。」とアドバイスするなど、和やかな雰囲気です。



一人一人が好きな色柄を選んで作るので個性あふれる製品が出来上がります。



- 牛乳パックが動きにくいように滑り止めを敷きます。
- 塗ったボンドが滑り止めの網目を通っていくので、牛乳パックが滑り止めとつくことがありません。
- 紙を貼り付ける時にペン立てが動かないように土台を使います。牛乳パックを四方に切り開いた簡単な造りですが、角度や高さを自在に変えられます。

平成24年度 学習発表会のお知らせ



日時：平成24年11月10日（土）9:15～12:10
会場：あきた総合支援エリア小体育館、交流ホール

各学部のステージ発表と学習の様子をパネルや作品で紹介する展示を行います。

本校は開校3年目になりますが、今年度は県立養護学校が設置されてから50年の節目の年です。50周年の歩みを振り返る企画を児童生徒実行委員会が計画しています。ぜひいらしてください。

秋田きらり支援学校に相談・見学の希望がありましたら、下記まで御連絡ください。



教頭 五十嵐 昌司 地域支援部 遠藤 美和子

住所：〒010-1407 秋田市上北手百崎字諏訪ノ沢3番127

E-mail：kirarisien@akita-pref.ed.jp

電話：018（889）8573 FAX：018（889）8575

次号は11月22日発行予定です。